

16. RI 機器のネットワーク化の経験

中別府良昭 土持 進作 中條 政敬
(鹿児島大・放)
吉永 利彦 福久 豊嗣 (同・放部)
高橋 宗尊 (島津製作所)

目的：鹿児島大学 RI センター内の RI 機器 prism 3000, 2000, (ODDYSEY), SCINTIPAC24000, 2400, ワークステーション (TITAN2) と Mac (Quadra 800) をネットワークで接続し, データの相互への転送を可能にし, 将来的には, 古い機器の生データを新しい

機器で処理可能にする。

方法：前記機器をイーサネット (TCP/IP プロトコル) で接続した。ただし, TITAN2 と SCINTIPAC24000 は専用の H/W および S/W を使用した。

結果：データの転送は可能になった。ODYSSEY や SCINTIPAC24000 の画像が一部のものをのぞいて Mac 上で表示可能になった。SCINTIPAC24000 の生データの一部 (static, dynamic データ) が ODYSSEY で処理可能になった。

今回は, 主に Mac へのデータの転送と表示の方法について報告した。